



3月上旬、窪田君の指導のため中国の砂漠を訪れた(左から2人目が筆者、3人目が窪田君)

砂と暮らし
砂に学ぶ
ITP
だより

20

3月上旬、ITPに度を下回り、風が吹きより中国で学んでいる荒れる日は外に5分と学生(窪田君)の指導 出ていられないほど寒のため、現地へ赴いた。い。

研究所のある蘭州は、 今回の目的は、窪田3月でも最低気温が0 君の研究ぶりや研究の

中国の砂漠で学生を指導する

現場・状況を見て、適切なアドバイスをすること。また窪田君を現地で指導してくれている李新榮先生ら中国人研究者と、窪田君の研究の進め方について打ち合わせを行うことである。

現地の研究所に着いてすぐ、中国人研究者数人に対して、窪田君が自分の研究計画について説明を行う。その結果、彼の当初の計画は、残り約7カ月の滞在で行うには難しいことが分かった。中国人

研究者のアドバイスを取り入れ、測定方法を変更し、皆でより現実的な方法に修正していく。

このように、学生と指導教員が現場でともに議論することは、研究の内容を深めていく上で重要である。学生だけでなく、指導教員もまた、学生を通じて多くのことを学んでいる。

(鳥取大学乾燥地研究センター教授・井上光弘)

(水曜日に掲載)